

発行日 平成 27 年 11 月 4 日

「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」フォーラムニュース 77号

発行：「CSR & コンプライアンス研究フォーラム」
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-14-7 山形ビル3階
TEL 03(3504)9800 FAX 03(5157)3180
E-Mail esm-hq@eco-texj.co.jp
HP : <http://www.eco-texj.co.jp>

晩秋の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

フォーラムニュース77号をお届けします。

9月25日 第68回研究フォーラムセミナーが開催されました

今回は久米繊維工業株式会社・会長・久米信行氏をお招きし、久米繊維の「ものづくり×ことづくり×ひとづくり」と題してご講演をいただきました。

※久米繊維工業：1935年に創業した、日本で最初にTシャツを量産した。自社一貫工場（国産）で、定番品を在庫してオープン販売している。従業員、本社10名、生産子会社100名。顧客は、ファッション関係、ユニフォーム業界、マスコミ・広告業界、自治体・NPO法人など約3,000社以上で、個人やネット通販客などがある。



幸せの尺度を持つ

久米会長は、出席者のソーシャル度や、幸福をもたらしたい範囲に関する質問を行ったのち、日本人は自己チュー・今チューが多いが、日本には“御元気でいらっしゃいますかおかげさまで”という言葉があり、万物に囲まれて、その恵みの中で生きている。その言葉について、“イマジン”を創ったイギリス人のジョン・レノンが衝撃的だったようだ。今、「それを伝える必要がある」と強調しました。

若者のキーワードは、しあわせ。幸せな仕事＝しあわせな人生であるとし、その見つけ方、その幸せな尺度について、「今こそ幸せの尺度を持とう。答えは自分の中にある。」と。人は、「幸せになるため生きている」。自分を幸せにできるのは自分であり、幸せな人は自分で考え、自分で決めて、自分で動く。人のためになると気持ちがいいのは、愛情を抱くと出るオキシトシンが出るため、と話を進めました。

CSR 経営：7つのメリット

久米会長は、“CSR 活動は、儲かっている大企業が余った資金で行うもの”と言われて



いるが、そうではなく、むしろ「中小企業のオーナー経営者や大企業でも部長クラスだからできるものである」と指摘。その具体化については、中小企業型の CSR 経営、即ブランディング、即マーケティングの方策を考えようと訴えました。

これらをベースに久米会長は、以下の CSR 経営：7つのメリットを主張しました。

“中小企業の枠を超えたネットワークでブランド構築する”との視点で

- 1 社長や社員が汗を流せば、お金はあまりかからない
- 2 ご縁が自然に広がり、お客様やパートナーが増える可能性がある
- 3 CSR ネットワークは、ブランド構築と集客交流に直結
- 4 CSR 活動は、社員を鍛える道場であり人材募集窓口
- 5 CSR 活動と本業が一体になって時間効率がアップする
- 6 人に良いことをすると、自分も元気になる。楽しくなる
- 7 CSR 活動は、ソーシャルメディアでネットコミ拡大

とし、中小企業の枠を超えたネットワークでブランド構築し、そうした CSR 経営によって「社員の目の輝きとお客様の見る目が変わる」ことになる。そのためにも、マスっぽいという 20 世紀型の固定概念を捨て、“会社×社長×社員の Facebook によって、ソーシャルな CSR 活動を見える化する”必要性を話しました。

久米会長は東京商工会議所テキストより、ブランド化の 4 つの鉄則として

- ①限定的②ストーリー③こだわり④ IT 活用、を挙げ

「自分で作って自分で決められるのがブランドである」と話しました。

中小企業をCSR化する7つのステップ

久米会長は、“経営理念と合ったCSR活動のテーマを選ぼう”を始めとして、中小企業をCSR化する、以下に示す7つのステップについて順を追って説明しました。

1. 経営理念と合ったCSR活動のテーマを選ぼう
2. そのテーマに合ったNPO法人とキーパーソンを探そう
3. 社長と社員で達人を訪ねて、まずは活動に参加しよう
4. 活動を手伝いながら、本業で役立てることを探そう
5. NPOとの協業を、ソーシャルメディアで逐次発信しよう
6. 未来の社長候補は、各自の探究テーマの第一人者に
7. 経営者はブリッジパーソン、新たな挑戦をしよう

経営理念と合ったCSR活動のテーマを選ぼう

久米会長は、その第1のステップについて久米繊維でのこれまでの対応について説明をしました。

LOHASPAS 企業に

「私達の夢は、LOHAS企業を超えるLOHASPAS企業になること」と主張する。それには「Art、Smile、Peaceを訴求し、日本が誇れる素材と技術によって着心地のよい国産Tシャツを作ること」。そのため機能品質、環境品質、文化品質によって海外製製品と差別化することが必要



であるとし、同社のように「日本オーガニックコットン協会を通じて世界のアーティストと連携する」など、個々のテーマに見合ったパートナー探しの必要性を訴えました。

久米会長は、そのパートナー探しのコツについて、テーマに見合ったNPOのネット検索などに加え、講演があった場合の対応について、その講演講師について

- 1 講師について事前にネット検索したか
- 2 講師のWEBサイトや紹介記事を読んだか
- 3 個人ブログや連載コラムを読んだか
- 4 Twitter やYouTube を見つけてフォローしたか。

講演直後は、講師との名刺交換をし、さらに「今日の感想などをTwitter やブログに書き、お礼やお礼メールを書いているのか。次にフォローとして、ネットで告知された講演やイベントに参加するのか」などで、それらによって新たな結びつきや協業が可能になると話しました。

久米会長は、同社の2人の社員が行った“すみだ日本の技と酒めぐり 2012”の流れを明かすとともに、クラウド活用による「はじめまして」メールの一例を紹介しました。久米会長はここで改めて、この例を紹介したFacebookの必要性を訴えました。また、「これからは名刺交換の時代ではない。スマホでつながらないと駄目です」とも主張しました。

ソーシャルメディアの活用

久米会長はまた、YouTube、USTREAM、LINE、BLOG、Twitter、Mail magazine などソーシャルメディアの活用によって超低コストでもっと多くの人と緩く繋がり、活動を明確に伝えることができ、サポーターともっと緊密に交流できることなどによって、企業経営が劇的に変わるということについても言及しました。

久米繊維の環境・文化 CSR 活動

10年で久米繊維の第二創業が完成予定で、権腐10年にならないように、ものづくり、ことづくり、ひとづくりの各テーマでホップ、ステップ、ジャンプの歩みを定め、ことづくりのジャンプの段階では“イベントを仕組み化して部下でも開催可能に“できるように見込んだ。



久米会長はまた、社員に身につけて欲しい力として

- ① ネット検索力：自分で、ネットで探して体得する力
- ② 読書力：良い参考書を自分で探して体得する力
- ③ 電話力：ネットで情報を得てから、電話で解決する力
- ④ 商品への愛：商品にほれ込み、誰にも負けぬ愛情を注ぐ力
- ⑤ 試行錯誤力：10回や20回の失敗にへこたれない力
- ⑥ 空想創造力：前例が無いものやことを考える力
- ⑦ 弟子力：その道の師匠たちに可愛がられる力
- ⑧ 孤立力：誰もわからない、やらないことが好機と考える力
- ⑨ 熟読力：目の前のヒントを深く読み解く力
- ⑩ 行動力：自分が動くことでしか問題は解決できない

の10項目を挙げた。

久米繊維のブログやメルマガ、Twitter 発信の経緯を見ると、2004年1月から社員有志でブログ発信を始め、現在はほぼ全員が週3回目標で発信。また、08年には営業全社員が

ブログリンク型メールマガジンの配信を開始。「多い人で約1000人の法人顧客やパートナーに配信」。10年1月には営業全社員が、Twitter & Facebookの活用を始めた。Twitter、Facebook、ブログやメルマガの配信で、毎週全顧客に接近している。久米会長は、こうした対応と同時に、「古臭いが、経営理念と社会性については、毎朝の朝礼で唱和して身に付けることが大事」としました。同時に、「社員への権限移譲——理念に合えば何でもやっていい。全社員が実名個人サイトで、まず自分の一番大事な人に発信する。自分の城は美しく仲間には誠実に」が肝要のようであると。

経営者はブリッジパーソン

理想とするコラボレーターだが、地域や異業種のキーパーソンとスマホ1つで、公私とも親しくなり、新しい価値や商品を創造し、愛されるブリッジパーソンであり、それになるには、「自分の得意分野にとらわれず、多彩な経験で知恵と度胸を体得し、出会ったご縁で誰とでも仲良しになり、新しい協業にも果敢に挑戦するべき」と主張しました。

久米会長は続けて、自身の夢（ライフワーク）と活動領域について、

- ①ライフワーク：仕事に関しては、日本でこそ作りえる「もの×こと×ひと」を世界へ、世界の子どもたちへ残したい
- ②ソーシャルライフで、ソーシャルメディア活用で個人、中小企業、NPO、地域を元気に
- ③ライフワークは、大切な人たちが語り継いでくれる大人の童話、絵本、音楽作りに力を入れたい

と考えを示しました。加えて、皆で成果をシェアする“独創共栄”、再度コミュニティを復活させる“修郷福民”や、日本には世界のものが集まり残っておりそれを見直していく“和魂和才”という新たな「志」を持った「21世紀型人材」を育てたいと強調しました。

未来企業とは8つの定義

久米会長は最後に、未来企業について以下のような考えを示しました。

- ・「百年後にも通じる夢と理念を掲げて、みんなをときめきさせる会社」
- ・「成長よりも共生を目指し、株価よりも笑顔を大切にする会社」
- ・「そこでしか創れない商品や、味わえないサービスを考えて磨き続ける会社」
- ・「さりげない佇まいや社員の所作言動に、美しい社風を感じる会社」
- ・「先端技術を生かしつつも、昔ながらの手仕事や対話も大切にする会社」
- ・「もの言わぬ自然やかよわき人たちにも心配りをして、思いやる会社」



- ・「多様な人財の個性と可能性を引き出し、協働の喜びと幸せを最大化する会社」
- ・「地域に根ざし、末永く愛されて持続的に発展する未来の老舗企業」

独創共栄を

「働くように遊ぶ人、遊ぶように働く人が21世紀型経営者」であり、縁と運、感を結合し、お互いにピンで生きながら、ネットで『独創共栄』しましょう」と講演を終えました。



<お知らせ>

- ・第69回研究フォーラムセミナーを下記のように予定しております。

2015年11月19日木曜・14:30~17:00

(17:00~懇親会)

仮題「EU圏における、化学物質管理及びコンプライアンス最新情報について」
ドイツ本部・3p institute CEO Willie Beuth氏からご講演を頂く予定です。

以上